

（前のページから）  
 などの職員研修をどうすすめるのか総務部として全庁的に各部署と連携をはかっている。合理的配慮や対応マニュアルをつくり、県の主体的な取り組みに期待する。15都道府県で県条例をつくっているが、総務部として助言をおこなってほしいなど求めた。県は、災害時に状況を避難できるようなマニュアルをつくり、市町村で名簿と1人ひとりの避難方法を作成している」と回答されたが、

シエルトーも含めた計画もお願いしたいと要求した。マイナナーバーについては、身元調査が簡単におこなわれ、個人の情報を防ぐ方法はないのではといった状況であり、事業者に対してもきちんとペナルティーも含めて対応をおこなっていかないと非常に難しいところだ。市町村課長はその後、市町村課長にその後の真意を確かめるべきであるが、指導・

町村要請で太地町の教育長の発言について、あきらかに確信犯であり、認識不足ではない。その後、下宏・副知事を交え、三軒一高・太地町長、藤本執行委員長、松本副委員長、宮本書記長、中上和年・新宮支部長との話し合いで、市町村課長はその後、市町村課長にその後の真意を確かめるべきであるが、指導・

報告もない県の責任として、ほかに差別事件についての情報の共有が同和問題の解決につながるという意見が出され二次交渉を終えた。積み残しの要求については、三役をまじえおこなう。

というくりではなく部落問題としてとらえた対策を講じてもらいたいなどの意見がだされた。また、差別事件は人権局のもの、「障害者差別解消法」は福祉保健部のものというように、他部署の問題は関係ないという姿勢ではなく、庁内で徹底した情報供給をはかってもらいたいと要求した。

昨年実施した30市町村オルグでは、補助金が必要との意見が多く、企画部として予算をもって具体的な施策を講じてもらいたいとの意見もだされた。県としては、職員に部落問題の実態や課題、「同対審」答申の内容を伝えていく。差別事件を規制する法律については、規制も必要

なので県条例ではなく国で法律をつくってもらうければならぬと条例制定には消極的な態度であった。

◆企画部  
 県が実施した実態調査について、明らかにした課題を市町村はあまり認識できていない。調査結果は市町村単位でデータ活用がしにくい、なにもかも人権

1

昨年12月に和歌山に由来した映画が上映され、たてつづけに2本映画を観た。ひとつは「海難1890」もうひとつは「杉原千畝」である。「海難1890」は、今から126年前、日本に親善訪問していたトルコ軍艦「エルトゥール号」が申本沖で座礁し、沈没し乗組員500人以上の犠牲者をだした。そのような過酷な状況のなかで申本の地元住民が懸命の救援活動をおこない、多くの人命が救われた。そして、時代が変わり1985年のイラン・イラク戦争時、日本国民の救出に乗り出してくれたのがトルコ政府であった。当時の日本は危機的状況を理由に在イラン日本人の救出を断念したのだが、トルコ政府が1980年のエルトゥール号の恩返しで飛行機をチャーターしてくる映画であった。この救出劇はニュースでも報道され、私もテレビに釘付けだったように思う。昨年「戦争法案」が強行採決され、日本が戦争のできる国にな

りつつある。この映画に出てくる申本の皆さん方の身体をはった人道支援・救出活動がトルコ政府を動かしたものだといえる。あの痛ましい第2次世界大戦の教訓から戦争放棄をうたった平和憲法が生まれた。この平和憲法を改悪し、国際貢献の名の下に武力によって平和外交をおしすすめていくこうとする安倍政権に言

原千畝「命のビザだ。もう皆さんもご存知のとおり、昨年私たちがとりくんできた「水平社宣言」関係資料を世界記憶遺産にする活動で、惜しくも国内選考に敗れた杉原千畝の映画だ。ドイツ占領下のヨーロッパで多くのユダヤ人を救った人といえ、シンドラーのリストが有名だが、日本にも多くのユダヤ人を救った人

世界的に人道支援で有名な杉原千畝さんだが、戦後長いあいだ日本政府に反対した逆賊と呼ばれ冷遇されてきたようだ。映画の冒頭のシーンはいった事からではないかと思う。今回この功績が認められ世界記憶遺産の国内選考になったものだろうが、私たちがこの杉原さんの遺品は強力なライバルだと思っていた。今回の国内選考おめでとうと言いたい。しかし、私たちが引きつづき水平社関係の資料を世界記憶遺産に登録する運動をおしすすめていく必要がある。

この夏には皆様方にお願した西光万吉の自宅保存募金で西光さんの自宅の修復と資料館が完成する。改めて部落解放運動の原点である「水平社宣言」の歴史と伝統を再確認し運動を展開していこう。

**主張**  
**「水平社宣言」の歴史と伝統を再確認し、運動を前進させよう**

もうひとつの映画は「杉原千畝」である。映画の冒頭、ある一人のイスラエル人が終戦後10年経った日本の外務省を訪れ「センボスギハラ」さんに会いたいと言つて訪ねてくるところから始まる。外務省の担当者はそのような人は知らないし存在しないと回答するシーンがある。当時の杉原のおかれていた状況がよくわかる。杉原は6000人にもおよぶユダ

**各支部旗びらき**

- 1/5 新宮（浮島隣保館）
- 1/6 湯浅（湯浅町総合センター）
- 1/7 平井（平井文化会館）
- 1/9 御坊（うまかもん山葵）
- 1/9 杭ノ瀬（杭ノ瀬文化会館）
- 1/10 岩橋（岩橋児童館）
- 1/10 古和田（古和田会館）
- 1/15 笠田東（みよし食堂）
- 1/15 有田市（北原集会所）
- 1/16 岩出（ホテルいとう）
- 1/24 名古曾（あまみ温泉）

**文化の窓**  
**映画「海難1890」**  
 座礁した船から救出されたトルコの乗組員とテヘランから救助された日本人。125年前の悲劇が生んだ申本とトルコの友好関係。エルトゥール号遭難事故から95年後の1985年。イラン・イラク戦争のさなか、テヘランにいる日本人を出国させたのがトルコ共和国の救援機であった。自国民より日本人を優先してくれたのは、エルトゥール号遭難事故だった。脈々と語り継がれた相見互い。必見の映画だ。  
 ◆お問い合わせは県連・教宣部まで  
 TEL 073-473-2301

今年はじめの第19回憲法の破壊を許さないランチTIMEデモを1月18日、和歌山市役所から京橋プロムナードをデモ行進し、約80人が参加した。藤井幹雄、弁護士の新シュプレヒコールですすんだデモ行進は北風が吹くなか、道を行き交う人へ声を大にしてシュプレヒコールをあげた。

寒空のなか、シュプレヒコールがつづいた

**ランチTIMEデモ**  
 ランチTIMEデモを1月18日、和歌山市役所から京橋プロムナードをデモ行進し、約80人が参加した。藤井幹雄、弁護士の新シュプレヒコールですすんだデモ行進は北風が吹くなか、道を行き交う人へ声を大にしてシュプレヒコールをあげた。